

# 派遣留学生帰国報告書

\* 復学後の情報を入力してください

記入日	2016年 6月 20日		
所属学部	文学部		
所属学科・専攻	国際言語文化学科		

## 1. 留学先について

留学先大学名	ウイスコンシン大学ミルウォーキー校				
留学先所属学部等	文理学部				
留学期間	出発日 2015/8/25	入学日 2015/9/2	修了日 2016/5/20	帰国日 2016/5/25	
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他( )				
	通学時間				<input checked="" type="checkbox"/> On campus
	通学方法	徒歩			
	居室スペース	<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> ( 2 ) 人部屋 <input type="checkbox"/> その他( )			
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室 <input type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> リビング <input type="checkbox"/> その他( )			
食事	自炊	%	学食 60 %	外食 20 %         その他 10 % (パーで購入した) *%で記入してください	
保険	海外旅行保険(名称)	OSSMA セット型留学保険			
	大学指定の保険(名称)	Student Accident and Sickness Insurance		<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入	
	その他				
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウイスコンシン(電車)				
	成田 ⇄	シカゴ(飛行機)	⇄	ウイスコンシン(大学で用意された有料バス)	

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	1,500,000	円	* おおよそでかまいません。					
出処								
自費	<input type="checkbox"/> 貯金	円	<input checked="" type="checkbox"/> アルバイト	60,000	円	<input type="checkbox"/> その他	円	
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親	450,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 家族・親戚	30,000	円	<input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/> JASSO	800,000	円	<input type="checkbox"/> その他名称( )			円	
その他	<input checked="" type="checkbox"/> 千葉大学助成金	181,000	円	<input type="checkbox"/> その他( )			円	

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金	50,000	円	<input type="checkbox"/> その他( )	円
留学中	<input checked="" type="checkbox"/> 海外送金	<input checked="" type="checkbox"/> キャッシング	<input type="checkbox"/> その他( )		

## 2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	全額、クレジットカードで。
住居にかかった費用	全額、クレジットカードで。
その他	

## 2-3. 内訳

\* 外貨で払ったものについては日本円に換算したおおよその金額も記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	JPN		185,000	円
海外旅行保険	USD	2076	249,120	円
OSSMA	JPN		25,200	円
査証・在留許可証	USD	200	21,000	円
住居	USD	6842	752,620	円
食費	USD	2787	306,672	円
通学に要する交通費		0	0	円
教科書、教材費	USD	325.29		円
その他大学に支払った経費	USD	35	3,850	円
光熱費		0	0	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

3. 学業面 \*必ず、後日、留学先の成績証明書と単位の互換認定が反映された千葉大学成績証明書を提出すること。

履修科目名 *全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 <sup>ex.</sup> 正規、聴講	単位数	単位互換認定申請の有無
1 Survey of World Societies	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
2 Advanced Listening, Speaking, Notetaking Skills for Internati	正規	4	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
3 Introduction to Linguistics	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
4 Literacy, Grammar & Methodologies in ESL Education	聴講	0	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
5 Yoga1	正規	1	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6 Organized Sport (Badminton)	正規	1	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
7 International English	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
8 Survey of Modern English Grammar	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
9 Advanced Reading, Writing & GrammarTune-up for Internati	正規	4	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
10 Introduction to Adult/ University Level TESOL	正規	3	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
11 Exercise & Fitness Activities (Ballet Barre)	正規	1	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
12			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
13			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
14			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
15			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
16			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
17			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
18			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
19			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
20			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

\*登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

授業はcourse catalogで見つけることができます。秋学期に開講されていても、春学期にはされていないものもあるため注意が必要です。受講者人数が集まらなると開講を中止する授業もあるようです。登録時期は秋学期は5月から8月、春学期は12月から1月。登録方法については、pawsというサイトで行います。そこで、あらかじめ登録者人数を確認できます。人気の授業はすぐに埋まってしまうため登録時期の開始後早めに登録することをおすすめします。登録後の追加、キャンセルはそれぞれ期限があります。レベルが高いと感じた授業などは、聴講(audit)に切り替えることもできるので検討してみると良いです。

### 3-2. 授業内容、方法に関して

授業では、基本的に全ての授業において発言が求められます。先生から意見を求められる時もあります。また講義がメインのクラスとはいえ、discussionの時間が設けられていることが多いです。授業によっては、講義が週1回とdiscussionが週1回という形式のものもあります。授業中に意見を述べるという文化に慣れていない日本人にとっては、ネイティブスピーカーの会話についていき内容を掴みながら意見を述べることにチャレンジングなところもあると思いますが、日々の授業で少しずつ慣れていくと思います。留学前から言われてきたことですが、課題の量が多いです。特にReadingの量が多いという授業がたくさんあると思います。しかし、全て読むのではなく、重要点や要旨をつかむことで十分だと思います。

### 3-3. 語学力について

留学中、語学力はReading,Listening,Speaking,Writingのどの側面においても上達すると思います。ReadingとListeningに関しては、授業中講義や生徒の発言でのListeningとReading課題によって鍛えられました。Speakingは留学前に大学受験やTOEFLで得た文法や語彙の知識でなんとかできるだろうと思っていましたが、いざ会話してみると全く文章が成り立たず、当初は詰まりながら話していました。日本で文章を瞬時に作るという作業(Speaking)を怠っていたのが原因だと思います。しかし諦めず日々英語を話すことに固執して、春学期中盤あたりに上達したかなと実感できました。帰国の直前、友人に、初めにあった時よりも自信をもって話せていると言われました。Writingは春学期にESL(留学生が取る英語の授業)でWritingを毎週書いていたのもあり、徐々に書くことに対して抵抗が減っていったと思います。ESLの先生からも文章の中で自分の考えを発展させていくことがうまくなったとコメントをいただきました。アメリカで4月に受けたTOEFLiBTの得点もSpeakingとWritingで大きく向上していました。留学を通して、英語に対する抵抗やコンプレックスはなくなったと思います。まだまだ聞き取れないこと、知らない語彙などたくさんあります。完全な英語力はないと思って帰国後も英語を使って何かするという習慣をなるべく続けたいです。

### 3-4. 図書館など学内施設について

学内施設は非常に整っていると思います。図書館は日曜日から木曜日まで24時間空いているので、自分の部屋でなかなか勉強が捗らない私はよく利用していました。ジム(Klotche)は学内にあり、ランニングマシンや筋トレの機械など充実していました。ロッカーが有料の登録制なので、不安であればあまり大事なものは持っていけない方が良いです。寮にも小さめのジムがあり利用している学生もいました。千葉大学におけるライフセンターのような場所(Union)がキャンパス中央にあります。そこでサンドイッチやバーガーなどが購入できます。食べ物の値段が高いですが、美味しいです。Sandburg寮についているCafeteriaの方が値段が安いかもしれません(Meal Plan利用時)。Unionのお昼時は大勢の人がランチをしていて混んでいます。食べ物だけではなく、映画館やビリヤード、ボーリング場も設置されています。

### 3-5. その他

交通手段について…ミルウォーキーは電車は発達しておらず、車・バスが主な交通手段です。ただほとんどの場合学生はお金がかからないので、心配不要でした。UWM(大学)の学生が使うことのできるタクシー、BOSSというものがあります。電話をして現在地と行き先を伝えればある範囲内でどこでも連れて行ってくれます。ただ寮の行き来は対応しておらず、シャトルバス(こちらも学生が無料で使える)を使うことになります。また、ミルウォーキー市内を走るバスもUWMの学生でいる間は専用カードを作って無料で乗車できます。2015年からbublという自転車も市内に何箇所か設置され、60分以内に所定の位置に返せば無料で利用できます。バスで行けないような場所や、バスを利用すると長時間かかってしまうこともあるため、誰か友人に頼んで車を出してもらおうというのも手だと思います。

#### 4. 生活面 \*気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。

##### 4-1. 住居について

私は、大学内にあるSandburg Hallという寮に住んでいました。寮の部屋は2人部屋で、トイレとシャワー室を4人で共有していました。2人でベッドルームを共有しており、部屋を半分に分ける際、お互いにプライベートスペースができるよう、机を向かい合わせにしました。1人部屋は2人部屋よりもプライベートスペースが広く取れる分、少し値段も高くなっているため、値段とプライベートスペースのどちらを優先させるか決める必要があります。ただ、私の場合、1人部屋でキッチン付きの寮を選んだにも関わらず、真反対の条件の部屋になってしまいました。寮申請期限を守って早めに申請したはずでしたが、しかし、ルームメイトが静かで思いやりのある、さらに趣味も似ている人だったので、助かりました。他の先輩方は、だいたい希望が通っていました。寮の申請時に、自分に正直に条件を設定しておけば困らないはずです。私のように希望通りにいかない場合もあるため、臨機応変に対応できることが大切だと思います。個人的には、キッチン付きで少々料金が高めかもしれませんが、CambridgeとSandburg East Tower, Purin Hallをおすすめします。キッチン付きを推薦する理由は次項目に記します。

どの寮にいても、トイレ・シャワーは共有になるはずです。アメリカ人はだいたい朝にシャワーを浴びることが多いので、夜に入った方が混雑して授業に間に合わないなどのトラブルにならないと思います。私の先輩で、ルームメイトの生活態度が合わず何度も話し合った結果状況が悪化してしまったため、部屋を交換することになったという事例があります。部屋のことでも困ったことになってしまったら、RAと呼ばれる寮の特定の階をまとめるリーダーにすぐに相談することが大事です。(RAは厳しい選考で選ばれているので、責任感が強くハキハキした人が多く頼りがいがあります)

##### 4-2. 食生活について

部屋にキッチンがついていなかったため、寮の3階にあるCafeteriaで食事をとることが多かったです。Meal Plan(食費を学期の前に収めて学内で売られている食べ物を購入できるシステム)を使って食事をしていました。自炊できた方が、時間はかかりますが、出費をおさえられ、健康にも良い食事ができると思います。日本から両親に電子レンジやお湯で調理できる日本食を送ってもらい食べていました。街には、アジア料理、ギリシャ料理などエスニック料理屋さんがあって、時々友人たちと食事していました。

##### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

各教室、図書館、Unionで、wifiが届いています。しかし混雑する時間帯はつながりにくかったです。寮(Sandburg)の1階と3階はwifiが飛んでいますが、部屋でwifiが必要でした。私はルームメイトが持ってきたwifiを使わせてもらっていました。携帯電話について、私は契約していた携帯電話会社さんのサービスで、アメリカにいても日本と同様の状態で使用できていたので、wifiがなくても使えることができ便利でした。電話は使用できませんでしたが、アメリカの携帯電話を使って電話だけ利用していました。

##### 4-4. 服装について

基本的に暖かい格好をしていました。8月から9月にかけては暑い日がありましたが、その後は5月まで寒い日々が続き、11月から3月にかけて厚手のコートが必須です。手袋やニット帽もこちらで購入しました。

## 4-5. 健康管理について

何度か風邪を引きました。到着後や旅行から帰ってきた後など、疲れがきている時になることが多かったです。引きそうだと感じた際には葛根湯の薬を飲んで予防していました。

## 4-6. 保険、OSSMAの利用 \*利用実績等をご記入ください

幸い、アメリカ滞在中に事故やけが、盗難被害等にあうことがなかったので利用することはありませんでした。

## 4-7. 課外活動について

教育団体Our Next Generation…週1回小学生が放課後に集まってくるので、そこで彼らの宿題をお手伝いしていました。毎週同じ子供とペアを組みます。子供たちは算数や国語(英語)、社会科を持ってくるので英語でそれらを説明することは大変でしたが、分数の計算のやり方を理解してもらえた時はやりがいを感じました。各学期ごとの申し込みで、秋学期のみ活動していました。

English Center…ミルウォーキーには海外からきた留学生や移民を支援する人たちがいます。その方達が英語教室で主に移民向けに開いています。1回のみ授業見学として行きましたが、ボランティアのため先生が足りず、授業をするように言われ、いきなりやったこともない英語での指導をしました。教室に来ている生徒さんたちも、ミャンマー、イラク、ソマリアなど出身国は様々で、私より年上の人ばかりで不安でしたが、どの人も気さくで優しく、英語力もそこそこあったので良かったです。教材は教室の方で用意されていたため、そのプリントを使いながら、Readingの授業をしました。英語の語彙を英語で説明するのがとても難しかったです。説明しにくい物体などは、携帯で調べて画像を見せて理解してもらっていました。例えば“vocabulary”は日本語で語彙、ボキャブラリーとして知っていますが、それがどういうものなのか、というのを英語でわかりやすく定義しなければなりません。英語を英語で説明するときには特に、語の意味がわかっているだけでなく、その意味をわかりやすく説明できる力が必要だと痛感しました。まだまだ語彙が不足していると気づいたので、終わりのない語彙勉強も続けていきたいと思います。この活動で感じたことは、こちらが経験不足で不慣れなこと、未熟な部分があるとしても、「少しでも理解してもらおう」という気持ちで努力していれば、自ずと生徒にその頑張りが伝わり、彼らも学ぼうという姿勢を見せてくれるのではないか、ということです。これを忘れず今後の教師活動につなげていきたいと思います。

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

上記で示した、「留学生や移民を支援する人たち」が主催するフリーディナーや、クリスマスパーティーに参加するようにしていました。毎週金曜日に大学キャンパス近くの一軒家で無料で食べることができるフリーディナーがあり、そこで多くの留学生やアメリカ人の友人と話したり、ゲームをして遊んだりして、とてもいい時間を過ごしました。毎月最初の金曜日はポットラック(料理を持ち合わせる)の日で、キッチンがなかった私は作って持って行くことはしていませんでしたが、他の留学生が作った料理や、友人の料理を手伝ったりして、いろいろな国の料理を知るのに良い機会でした。一度、台湾の友人とバブルティー(タピオカミルクティー)と一緒に作り、ポットラックの日を持って行ったことがありました。いつも食しているものを作る経験ができて楽しかったです。クリスマスには、湖近くの大きな家に招待されました。クリスマスの歌を生演奏のピアノに合わせて歌ったり、たくさんの人たちに出会って話したり、楽しいひと時を過ごしました。また、その主催者のなかで、英語教育を長く学び教師経験の豊富な方に出会い、彼女に私の課題レポートやアドバイスをいただいて、大きなレポートのときは添削してもらっていました。時々彼女の家にお邪魔して映画鑑賞会をしていました。その映画も内容が人種問題の話だったので鑑賞後もお話して、彼女のアメリカ人としての考え方に触れたり、大学1年の頃に行った公民権運動の舞台であるアラバマ(米南部)州での研修で感じたことを思い出したり、映画について深く考えさせられました。このフリーディナーで出会った人たちの多くはクリスチャンで、毎週日曜日は教会のサービスを受けています。イースター(キリストの復活を祝う)の日に教会を訪れ、ここでもまた米南部の教会を思い起こし、サービスの様子・雰囲気の違いに気づきました。学内で友人を作るだけでなく、外へ出て、なるべくイベントに参加することで、もっと多くの経験をする事ができると思うので、積極的に活動することは大事です。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

インスタント味噌汁、カイロ、日本の薬(マキロン、風邪薬)

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

スーツ(就職活動はすることがなかったため)、めんつゆ(キッチンがなかったため)

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

留学先で他国からの留学生やアメリカ人は何か誘われた時に、誘われた内容に興味があればはっきり断る文化があると思いました。日本人の文化として、断る際に相手を気遣って言葉を濁すという傾向があります。なにか誘われた時にはっきり断らず遠回しな表現をしていると、相手は興味がないことを理解せず、勘違いが始まってしまいます。わたしの友人で、それが原因で困ったことになった人もいました。そうしたトラブルを防ぐために、自分の思いや意見は人に伝え、対話することが大切だと感じました。それはルームメイト(ベッドがある部屋を共有する)・スイートメイト(トイレやシャワーを共有する)との生活の時にも言えることです。こちらの住まいでは、誰かと部屋を共有することが普通です。共同生活をしていれば問題は出てくるものです。私の部屋では、なかなかお互いの顔を合わせる事が難しかったため、グループチャットを作って不満やお願いを互いに伝えていました。シャワーの時間がかぶってしまい授業に遅れそうになってしまったため、朝に浴びるのを控えてほしい、というお願いや、異性を連れてきた際トイレを使用していると知らせてほしいというお願い等、様々なことをチャットで話し合いました。共同生活をしていると自分に都合の合わないことが出てきますが、言い方を考えて正直に困っていることを伝えることで、トラブルにならずに済むと思います。

#### 4-12. 余暇の過ごし方

旅行 \* 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

ex) 【イギリス・ロンドン&フランス・パリ(観光)】〇〇年〇月(5日間)、約5万円

【ニューヨーク(観光)】2015年12月から1月(6日間)、約10万円  
 【フロリダ・オーランド(観光)】2016年1月(7日間)、約7万円、  
 【ミネソタ・ミネアポリス(観光)】2016年3月(2日間)、約2万円

gat \* 気分転換やストレス発散法など。

友人と話を楽しく過ごす時間も日々の勉強の気分転換になりました。日本にいる時は、カラオケに  
 行って大きな声を出すことがストレス発散になっていました。こちらではなかなかカラオケは行けないの  
 で、ルームメイトと音楽の趣味が合ったので、一緒に歌ったりしていました。時々部屋に閉じこもって一人  
 になりたい時は、部屋で映画をみたり音楽を聴いたりしていました。部屋は二人で共有していたのです  
 が、ルームメイトが静かで、部屋割りも相手の顔が見えないような完全な個人スペースができるようにした  
 のでとても過ごしやすかったです。秋学期と春学期の間、春学期の真ん中でそれぞれ1ヶ月、1週間の休  
 暇があったので、そこで観光をすることも楽しい時間でした。

### 5. 報告

#### 5-2. 留学先大学について(150~200文字)

ウィスコンシン大学ミルウォーキー校はミシガン湖に面しており、自然あふれたキャンパスである。キャンパス内に大  
 きな運動施設や、静かに自習ができる3階建ての図書館等運動・勉強のための施設が充実している。Unionには、文  
 房具や大学グッズが手に入るショップや、ランチタイムににぎわうフードコート、映画館、地下にはポーリング場や卓  
 球場、バーなど娯楽施設も完備している。

#### 5-3. 留学中の様子(450~500文字)

9月に秋学期をスタートさせ、専攻である言語学基礎、気になっていた文化人類学、英語力を磨くための  
 英語(ESL)の授業を受講し、英語での授業に慣れるために基礎を中心の授業を取るよう計画しました。授  
 業と同時に教育系活動にも挑戦し、小学生のチューターとして宿題の手伝いをするボランティアをしまし  
 た。組んだ女の子は算数が苦手で、分数を理解してもらえた時はやりがいを感じました。このボラン  
 ティアを始めた当初他のチューターに比べ英語が拙い私が務まるのか不安でしたが、ボランティアのスタッフと  
 チューターを組んだ女の子が親切に接してくれて感謝しています。春学期には英語教授法の授業、言語  
 学の統語論と社会言語学、前期していなかったライティングの授業を受講しました。今期は言語学をより  
 深く学べるように計画しました。英語教授法の課題で学内語学プログラムの英語授業の見学をして、アメ  
 リカに移民してくる人たちに向けた授業教材づくりが為されていることを学びました。日本の授業でも応用  
 できるのではないかと思います。授業指導案を作り、一つのテーマをじっくり授業で扱う大切さ、他の人の  
 面白い文法の教え方等多くを学びました。



## 5-4. 留学希望者へのアドバイス(300~400文字)

まず、なんでも心配せずに一回きりのチャンスと思ってどんどん挑戦していくべきだと思います。私は前期課外活動に挑戦しましたが、やはり後期も忙しくなるからと言わずに活動しておけばよかったなと思っています。留学前に決めた自己目標に向けての活動は優先して挑戦していくべきです。

語学力に関して言えば、当初英語がなかなか話せずもどかしい時期が長くあると思います。私の場合、始めはアメリカ人の友人ができず悩んでいましたが、留学生友達とよくしゃべる、日本人とも英語で話す、ルームメイトにも積極的に話しかける、授業でも聞いているだけでなく発言する、というように英語を使う環境づくりをしました。結局英語をとまることなく話せているなど感じたのは、留学が終わるところでした。留学生の友人にも前より自信を持って話せているねと言ってもらえました。諦めずに続けていくことが大事です。

留学前私も先輩方の留学体験を読ませていただいて、こうしなきゃとわかってはいても、このように反省が出てきました。経験談も大切ですが、あまり固執せず時々気を抜く時間もとって自分らしく充実した留学生活をしてきてください。

## 5-5. 留学を終えて \* 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

この派遣留学プログラムで、まず、語学留学とは違い、英語を使って専攻に関する授業を受け理解し、ネイティブスピーカーのなかで意見を述べる、という貴重な経験をするのができ、完璧とは言わないがそれに慣れたと思います。また、新しい価値観を得たり、自覚していなかった性格にも気づきました。こうした考えや自己分析は、のちの進路決定にも役立てます。留学経験を通して大きく変わったことは、何事にも恐れずチャレンジすることがスムーズにできるようになったことだと思います。今まで実家暮らしだった私にとって、責任感・自立心が強まったことは大きな変化です。海外に出るということ自体大きな決断と思っていましたが、留学準備で必要な様々な手続きや、渡航先での問題を対処を経験したことで、そうした部分を楽に考えられるようになったのではないかと感じます。今後の目標は、留学のみならずさらにインターシップ等にチャレンジし、卒業後の進路決定をしたいと思います。留学で学んだ通り、明確な目標を定め、それに向け日々精進していきたいです。

お疲れ様でした